

資料No. 4

江田島市公共交通協議会
令和3年10月20日

江田島市地域公共交通網形成計画の評価指標の検証について

1 目的

江田島市地域公共交通網形成計画の5年間（H28～R2年度）の計画期間が満了するため、計画の総括を行います。

2 評価指標の達成状況

別紙1を参照

3 今後の対応

評価指標の達成状況や公共交通に関する現状等を整理した上で、現在策定している「江田島市地域公共交通計画」に反映させていきます。

計画の取組状況及び評価指標の達成状況（H28～R2年度末）

目標	事業名	具体的な実施状況	評価指標	評価指標の推移						現状 (合計)	目標値	達成状況	目標未達成の場合の理由、問題点・課題等
				策定時 (H26)	H28 年度末 (1年目)	H29 年度末 (2年目)	H30 年度末 (3年目)	R元 年度末 (4年目)	R2 年度末 (5年目)				
(1) まちづくりと連携した効果的・効率的な公共交通体系の構築													
目標① 最適な公共交通ネットワークの構築	①海上交通と陸上交通の連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ○航路事業者と江田島バス側の乗換改善に向けた覚書を締結（H28） ○中町航路のダイヤ改正の際、航路接続に配慮したバスダイヤを編成（R2～） 	航路利用者の前年比減少率（%）	▲4.2%	▲2.8%	▲3.5%	1.60%	▲7.0%	▲20.1%	▲20.1	▲3.5%以下	△	<ul style="list-style-type: none"> ○H28～30年度は、目標を達成できた。しかし、R1～2年度は、7月豪雨災害による利用者増や新型コロナウイルス感染症の影響もあり、目標を達成できなかった。 ○引き続き、市内交通事業者と連携しながら、利用促進を図るための取組を推進していく。
	②路線バス（幹線・支線）系統やダイヤの見直し	<ul style="list-style-type: none"> ○中町大柿線の高田延伸（H29～） ○路線バスの現状分析（H30～） 	路線バスの年間利用者数（万人）	70万人	48万人	47万人	47万人	49万人	44万人	44万人	70万人以上	×	<ul style="list-style-type: none"> ○路線バスの年間利用者数は、40～50万人で推移しており、目標を達成できなかった。要因は、効果的な利用促進や需要喚起策が実施できなかったためと推測される。 ○令和3年度の新規事業として、路線バスやおれんじ号の利用促進と需要喚起を図るため、「おでかけ無料乗車day」を実施する。 ○利用者ニーズに対応した交通網を形成するため、市内交通事業者と連携しながら、路線網の再編を行っている。
	③おれんじ号の利便性向上	<ul style="list-style-type: none"> ○船との接続や利用者ニーズに基づくダイヤ改正を実施（乗降場所の追加や経路変更を含む。）（H29～） 	おれんじ号運行見直し基準（乗降場）の目標を達成した系統の割合（%）	50% (2/4 系統)	50%	50%	50%	50%	50%	50%	50%	75% (3/4 系統)以上	×
目標② 交通結節点における機能の向上	①乗換環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○バスロケシステムの導入（H28～） ○結節点（港、バスターミナル）にデジタルサイネージを設置（H28～） ○江田島バス（株）の営業所移転（R1～） 	乗継改善策の実施件数（件）	—	2件	0件	0件	1件	0件	3件	2件	○	
(2) 公共交通の安心感と利便性を高める利用環境の整備													
目標③ 利用環境の改善による利便性等の向上	①運賃負担感の軽減策の検討	<ul style="list-style-type: none"> ○通学定期補助制度の創設（H29～） ○路線バスに交通系ICカード（PASPY）を導入（R1～） 	負担感軽減策の実施件数（件）	—	0件	1件	0件	1件	0件	2件	2件	○	
	②ICカードの導入	<ul style="list-style-type: none"> ○航路事業者との勉強会（H28・R1） ○航路発券機のICカード対応化（R2～） ○一部航路船内に無料Wi-Fiを導入（R2～） ○（再）路線バスに交通系ICカード（PASPY）を導入（R1～） 											
	③バリアフリー化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○おれんじ号にバリアフリー車両を導入（H28～） ○路線バス車両の更新（H29：2台、R1：3台） 	バリアフリー車両の導入率（%）	53.3% (8台/15台)	53.30%	66.6% (10台/15台)	66.60%	86.6% (13台/15台)	86.60%	86.60%	80.0%以上	○	
	④わかりやすい公共交通情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> ○公共交通マップの作成（H28～） ○（再）バスロケシステムの導入（H28～） ○（再）結節点（港、バスターミナル）にデジタルサイネージを設置（H28～） ○バス停名称の変更（H29～） ○江田島バス陣HPの開設（R1～） 	情報提供資機材の整備件数（件）	—	3件	1件	0件	1件	0件	5件	2件	○	
目標④ 観光の強化による利用者の増加	①公共交通を活用した観光ルートの開発	<ul style="list-style-type: none"> ○市HPに公共交通を利用した観光ルートを掲載（H28～） ○瀬戸内海クルーズ線の旅行商品を市FBでPR（R1～） ○江田島バス陣HPでバスを利用した観光ルートを掲載（R2～） 	年間総観光客数（万人）	54万人	54万人	63万人	63万人	52万人	26万人	26万人	70万人	×	<ul style="list-style-type: none"> ○令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、年間総観光客数は激減しており、目標を達成できなかった。 ○これまでの取組を活かしつつ、観光客増加に向けた取組を進めていく。
	②観光客に向けた情報発信力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○Google路線検索への対応（R1～） ○路線バスの24時間乗車券（MOBIRY）を販売開始（R2～） ○市内航路を利用したスタンプラリーを開催（R2） ○（再）瀬戸内海クルーズ線の旅行商品を市FBでPR（R1～） 											
(3) 地域との協働による公共交通の確保・維持・改善													
目標⑤ 地域で公共交通を支えるための意識の醸成	①公共交通の利用促進と地域との意見交換会の開催	<ul style="list-style-type: none"> ○市広報誌で啓発記事の連載（H28～） ○おれんじ号のダイヤ改正に伴う出前講座や地元自治会との調整を適宜実施（H28～） ○自治会主体のバスの乗り方教室を開催（H30～） 	意見交換会の開催回数（回）	年間2回	3回	3回	2回	1回	0回	延べ9回	延べ10回以上	×	<ul style="list-style-type: none"> ○令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、意見交換会を開催できなかったため、目標を達成できなかった。 ○持続可能な公共交通の構築するには、市民の理解が必要不可欠であるが、効果的な事業を行えなかった。次期計画では、「地域で乗って守る」という機運を高める事業を行う必要がある。
			地域が主体となった取組の件数（件）	—	0件	0件	1件	1件	0件	2件	2件	○	